

入試出題文章と英進館教材・テストでの出題内容の一致!!

2022年 福岡県公立入試

2月2週目にテキストの宿題として扱った古文の内容が、入試古典の内容と一致。入試では『漢文の書き下し文』『古文の現代語訳』の順に出題。英進館のテキストも、『漢文の書き下し文』『漢文の現代語訳』『同内容の古文』と、ほぼ同じ形式で対策を行っていた。形式・内容ともにほぼ一致。ズバリの中!

- ③ いかばかり心のうち涼しかりけん  
とあるが、どういうことか。
- 現代語訳の I に入る内容として  
最も適当なものを、次の1〜4から一つ選び、番号を書け。
- 1 どんなにか心の中はすがすがしかっただろうか
  - 2 どんなにか心の中は寂しかっただろうか
  - 3 どんなにか心の中はわびしかっただろうか
  - 4 どんなにか心の中は楽しかっただろうか

〔徒然草〕  
人は、おのれをつづまやかにし、おごりを退けて、財を持たず、世をむさばらざらんぞ、いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀なり。唐土に許由と言ひつる人は、さらに身にしがへる貯へもなく、水をも手して捧げて飲みけるを見て、なりひきさといふ物を人の得させたりある時、木の枝にかけたりけるが、風に吹かれて鳴りけるを、かしましとてまた手にむすびてぞ水も飲みける。③ いかばかり心のうち涼しかりけん。孫農は、冬月に衾なくて、藁一束ありけるを、夕には是に臥し、朝には収めもろこしの人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけり。これらの人は、語りも伝ふべからず。

〔新釈漢文大系 第58巻 蒙求 上〕による。一部改変

〔蒙求〕  
許由、箕山に隠れ、盃器無し。手を以て水を捧げて之を飲む。① 人一瓢を遺り、以て操りて飲むことを得たり。飲みをはりて木の上に掛くるに、風吹き漚漚として声有り。由以て② 煩はしと為し、遂に之を去る。  
(注) 箕山：今の河南省にある山。 漚漚：風の音の意。

〔三〕  
次は、中国の唐の時代の『蒙求』の一部と、それを題材にした鎌倉時代末期の『徒然草』の一部と、『徒然草』の現代語訳である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

古典の問題で「漢文書き下し文」「古典の現代語訳」  
2つの題材がズバリの中!

2022年2月12日実施  
入試実践力完成講座テキスト

- ④ いかばかり心のうち涼しかりけん  
本文中の ④ いかばかり心のうち涼しかりけん の意味として、最も適当なものを、次の1〜4のうちから一つ選び、その番号を書け。
- 1 瓢箪を捨てた許由は、どんなにすがすがしかったことだろう。
  - 2 風で鳴る瓢箪の音は、どんなに澄んで美しかったことだろう。
  - 3 許由に瓢箪を贈った人は、どんなに悲しかったことだろう。
  - 4 許由が手ですくった水は、どんなに冷たかったことだろう。

〔書き下し文〕  
許由、箕山に隠れ、盃器無し。手を以て水を捧げて之を飲む。人一瓢を遺り、以て操りて飲むことを得たり。飲み訖はりて木の上に掛くるに、風吹き漚漚として声有り。由以て煩はしと為し、遂に之を去る。  
人はおのれをつづまやかにし、奢りを退けて、財を持たず、世をむさばらざらんぞ、いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀なり。唐土に許由と言ひつる人は、さらに身にしがへる貯へもなく、水をも手して捧げて飲みけるを見て、なりひきさといふ物を人の得させたりある時、木の枝にかけたりけるが、風にふかれて鳴りけるを、かしましとて捨てつ。また手にむすびてぞ水も飲みける。④ いかばかり心のうち涼しかりけん。

〔書き下し文〕

〔新釈漢文大系 第58巻 蒙求 上〕による。一部改変

〔蒙求〕による。一部改変

〔二〕  
次の文章は、中国の故事について書かれた漢文Aと、その内容を例として用いた日本の古文Bである。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

「いかばかり心のうち涼しかりけん」の意味を問う問題も完全一致!